

常石とともに学園の地域・保護者・教職員対象のCS導入に向けた説明会

2022(R4)10.14(金)

15:15~16:45

場所：沼隈サンパル文化センター

① 質疑応答や意見交流

参加者：地区の自治連合会から来ています。学校運営協議会の会長さんは、何年くらい継続してされているのか。

講 師：平成24年度の準備期間から現在までずっとされています。24年度と25年度は準備委員の委員でした。

26年度から本市でCSをスタートすることになり、そこから会長として取り組まれています。

参加者：立石会長さんと、発表資料にあった模擬会社の立

石さんという方は同一人物ですか。

講 師：同じ方です。立石さんは会社を経営されていて、地元の企業もしっかりしてもらいたいという思いをもっておられます。

立石さんは、「会長さんは会社もあって大変なのに、学校のためにボランティアをよくやりますね。」と周囲からよく言われるそうです。

その時に立石さんは「私はボランティアではやっていない。将来、自分の会社の社員になるかもしれない子どもたちへの投資だと思ってやっている。

る。また、将来この地域を支えてくれる子どもがいるかもしれない。その子どもたちを育てる将来への投資なんです。」と言われます。その声を聞いた地元の企業の方が企業支援チームとして模擬会社の取組に入つて下さっています。このように、立石さんは深く関わってくださっている方です。



参加者：府中明郷学園は統合されて集まった学校ですが、常石とともに学園はイエナプラン教育校ということで、地元から通っている人数は半数をきっている状況です。嬉しいことに学区外から通学して来られたり、移住して来られたりする方もいらっしゃいます。様々な方がいらっしゃる中で、この地域が活性化していくには、どのようなことを大切すれば良いと思いますか。先ほどの話の中で、いろいろな失敗をしてこられたということで、何か教えていただけたらと思います。

講 師：失敗を繰り返してきたのですが、今振り返ると「失敗」と言えるものはありません。そこで何が足りなかったのかという「学び」があると考え直せば良いと思います。上手く行かなかったのは、そこに課題があるので、その課題を解決していくべきかなっていきます。

地元以外の方も多くいらっしゃるということで、常石とともに学園は、多様な学びができる環境がある学校と言えます。もし、地元以外の方が地域になじみにくいという課題があるとしたら、コミュニティ・スクールの活動に加わることで、地域とのつながりがよりできていくし、コミュニティ・スクールを通して多様な考え方を学ぶ場にもなっていくと思います。大変魅力的な学校になるなど私は感じました。コミュニティ・スクールでは課題をどう解決していくかを考えることが重要だと思います。

参加者：府中明郷学園では、稻作体験などの校外学習の活動は、年間何回されていますか。

講 師：9年間のカリキュラムを作っていて、学年ごとに内容を決めています。だから、地域の方も「この時期には

府中明郷学園の〇年生が学びにくる」ということが分かっています。そのような校外学習と教科との学習をどうつなげていくかが大切なところになっています。

参加者：学校運営協議会のメンバーが、地域、保護者、学校となっていると思いますが、最適な人数はありますか。

講 師：福山市教育委員会が人数も含め、規則等を定めていると思います。その規則の中で常石ともに学園の学校運営協議会の内容を定めていくようになると思います。府中市の場合は、15名以内という枠でしています。

参加者：人数の中で人選のバランスというのは学校運営協議会で決めていくようになりますか。また、委員の任期はどうなっていますか。

講 師：そうですね。「地元の〇〇企業の方を入れていこう」などの話をします。コミュニティ・スクールは人選がとても重要です。校長の学校経営を理解して、「子ども達のために力を貸そう」という方が適役です。地域と学校とPTA（会長・副会長）など、バランスを考えることが非常に重要です。

これまでの経験から思うことは、定員が10名だとしたら、10名いっぱいを選ばない方がいいと思います。やっていく中で、「子ども達の学習のためにこんな人が必要だ」「この企業の方に入ってもらいたい」ということが分かってくると思います。

地域には知らないだけで、ものすごい力をもっている人がたくさんいらっしゃいます。その方に出会ったときにその人に入って頂けるように人数の枠は考えておいた方が良いと思います。その中で、バランスを考えていくことが重要です。

府中市では、学校運営協議会の委員の任期は、「更新」なので決まっていません。循環をしていくことが大事なので、学校から毎年、推薦書をあげてもらっています。そして教育委員会が承認し、委嘱するようになります。これは市によって違うので、福山市の規則を確認すると良いと思います。

参加者：私は先生ではないのですが、CSの取組を導入することで、先生たちの負担は増えたのか教えて下さい。

講 師：新しいことをやろうと思ったら、負担はあります。一番負担があるのは、校長先生、教頭先生のところだと思います。しかし、先生方がこの負担をどう考えるかということもあります。今やっている学びが地域と一緒にやることでより充実したものになります。はじめは時間がかかるかもしれません、次やるときにはもっと短い時間でできるようになります。カリキュラムをアップデートしていくことが重要だという話をしましたが、つながっていくと思います。また、先生方の職能成長にも必ずつながってきます。なかなか目に見えないことなんですが、やってみた後に感じられることだと思います。

府中明郷学園にも初任者がいます。広島県の初任者は4年間で異動していきます。CSを通して、4年間で地元の方からいろいろ学びます。4年後、異動した学校には何もなくて、「すべて自分ひとりでやっていかないといけない」とびっくりしたという話を聞きます。CSの中で育った先生方は、ひとりでやるには難しい活動にも直面しています。

ただ、CSの活動をしたから先生方も忙しくなったというのは、その学校運営協議会に改良する余地があるとみた方がいいと思います。

② 参加者のアンケート(感想・意見・質問など)

- ◇ 現在、常石ともに学園でやっていること、やろうとしていることを宮田主幹の言われるような「コミュニティ・スクールの視点」で見直していくことが大切だと感じました。すでに取り組んでいるところも現状としてかなりあるので、目指すべき方向性が見えてきたと感じました。ぜひ、視察に行かせて頂けたらと思います。大変、学びの多い研修となりました。ありがとうございました。
- ◇ 新しいことへの取組に対しては、不安や心配がある。「やってみる」ことが大切だと感じた。その思いを後押ししてくれるのがCSであるようにも感じた。常石ともに学園が何を目指すのか、地域はどういう思いを持っているのか、家族の思いは何か、を互いに話し合い、できることから進めていくことが大切だと思う。地域や家族と連携することで、教育(学び)がより充実していくことは間違いないだろうと思います。「新しい取組」と思うと、はじめは負担感もあるかもしれません、楽しみながら、力を借りながら取り組んでいきたいと思いました。ありがとうございました。
- ◇ 地域での取組に、常石にある企業として、この地域が永く発展するような子どもの育成に取り組んでもらえるよう尽力していければと思います。将来の人材への投資というお考えにも深く感銘しました。
- ◇ コミュニティ・スクールということをあまり知らなかったので、宮田さんの話を聞いて、特に心に残ったことは、地域と学校が学びをつなげていくことです。地域と学校が協力していくことで、生きた学びへとつながっていくことが分かりました。教師として、一人の力だけでは限界があります。しかし、地域のたくさんの方の力があれば解決したり、より良くなったりすると思いました。今取り組んでいることをさらによりよくするためのコミュニティ・スクールだと思いました。今日は、本当にありがとうございました。
- ◇ コミュニティ・スクールを導入することで、学校だけでなく地域と家庭が同じ方向を向いてより一体感が出て子どもたちの学びがより良いものになっていくと感じました。また、そのために地域と学校がこまめに連携をとっていくことが大切なんだと思います。子ども達が「真の生きる力」を身に付けるために、今日教えていただいたことを活かしていくと良いなと思います。1年生のスタートカリキュラムやむらさきラボ、模擬会社の設立など、具体的な取組を聞いて、子ども達、子どもと地域、先生と地域、地域同士、先生同士など、いろいろな人と人のつながりができることができただなと感じました。
- ◇ 「参加」ではなく「参画」という言葉が心に残りました。子ども達がただ参加するだけでなく、一緒に作る、一緒に体験するということが大切なのかなと思いました。常石ともに学園でどんなコミュニティ・スクールを作っていくか、まだ私自身イメージを持っていないのですが、移住してきたご家族、他の地域から登校しているご家族をつなぐなど、見えるところやできるところから取り組んでいけたらと思いました。
- ◇ 新しいことへの取組に対しては、不安や心配がある。「やってみる」ことが大切だと感じた。その思いを後押ししてくれるのがCSであるようにも感じた。常石ともに学園が何を目指すのか、地域はどういう思いを持っているのか、家族の思いは何か、を互いに話し合い、できることから進めていくことが大切だと思う。

